

2019(令和元)年12月23日

予防接種基本方針部会

～特に中核市の立場から～

令和元年(2019年)12月23日

豊中市健康医療部
部長 兼 保健所長

松岡太郎

豊中市の紹介

1. 平成24年(2012年)に中核市へ移行
2. 大阪市の北隣
3. 人口 約40万人で微増(人口密度は中核市で最高?)
4. “安全・安心 健康先進都市とよなか”
5. 高校野球発祥の地

松岡太郎の自己紹介

1. 平成26年(2014年)から豊中市保健所長
2. (元)小児科専門医
3. 平成9年(1997年)から豊中市職員
(市立豊中病院小児科から豊中市保健所へ)
4. 日本子ども虐待医学会理事

中核市保健所とは？

平成9年に保健所法を地域保健法に改正
～都道府県と市町村役割の見直し～

都道府県の役割 保健所

原則、所長は正職員の医師

「怖い行政」～監督や指導～
医事薬事・衛生・感染症

市町村の役割 保健センター

原則、常勤医は不在

「優しい行政」～支援や助言～
母子保健・成人保健・予防接種

中核市保健所が目指すべきは、
二つの役割のハイブリッド！

豊中市が考える予防接種の課題

(主に担当事務職から)

1. 「予防接種事業の委託」に多くの“艱難辛苦”が伴う
2. 新しい定期予防接種の導入に時間的余裕がない
3. ワクチンの在庫状況や偏在状況が把握できない

(主に担当医療職から)

4. 接種率の算定に困っている
5. 誤接種の報告基準が曖昧である
6. 特にA類の複雑な接種スケジュールの周知が難しい

1. 「予防接種事業の委託」について

- 1) 受託先との“力関係”で苦しんでいる！
- 2) 予防接種委託料算定の根拠が曖昧である
 - ～市民や議会への説明が困難
 - ～「受託先のご意向は？」「周辺の市町の状況は？」
- 3) 団体に属さない受託医療機関がある
- 4) 医療機関への委託料(や予診票・請求書等の様式)を全国共通に出来ないのか？少なくとも“指針”の提示は出来ないのか？

その他の課題について～1

2. 新しい定期予防接種の導入

- 1) 時間的余裕がない
- 2) 予算が確保できない

3. 在庫状況や偏在状況

- 1) 市では把握できない
- 2) 市民からの問い合わせは入る

その他の課題について～2

4. 接種率の算定

- 1) 事業の評価としては、欠かせない指標である
- 2) “分母”の算出法を提示して欲しい

5. 誤接種報告

- 1) 判断基準が市町村で異なる
- 2) 真面目に報告するほど、「劣悪な自治体」に？

その他の課題について～3

6. 市民への啓発

- 1) 「豊中市保健所公式ツイッター」を利活用している
- 2) 同じ市役所内の保健医療部門から教育委員会や児童福祉部門に対して行う情報提供や指導は、有効であると思われる
- 3) “予防接種台帳”からの未接種者の抽出は可能で、接種勧奨に利用している
- 4) 特にA類の複雑な接種スケジュールの周知に課題を感じている

予防接種の可能性～1

1. 「子育て支援」の視点

1) 乳幼児期に繰り返し受診する

～「かかりつけ医」に留まらず、接種医には「子育て支援」の観点からの参画を期待したい

2) “予防接種台帳”を児童虐待対応へ利活用できる

～豊中市では、母子保健部門との供覧が可能である

～「ワクチン接種歴なし」は重要な“傍証”である

予防接種の可能性～2

2. 「中核市」の視点

- 1) 保健所常勤医師の関与が期待できる
- 2) (同じ保健所内で) 感染症対策担当や医療安全担当との連携が可能である
- 3) (“保健センター時代”に引き続き) 母子保健担当との連携が重要である

同じ予防接種事業でも
保健所を持つ中核市は
その他の市町村とは
違った施策の展開が出来るはずである